



The Star in the West

東京西ワイズメンズクラブ会報

THE SERVICE CLUB FOR THE YMCA

THEY'S MEN'S CLUB OF TOKYO-NISHI(03)3202-0342

c/o TOKYO YMCA YAMATE CENTER.2-18-12 NISHIWASEDA, SHINJUKU-KU, TOKYO 169-0051, JAPAN

国際会長主題
アジア会長主題
東日本区理事主題
あずさ部部長主題
東京西クラブ会長主題

“Let Us Walk in the Light-Together” 「ともに、光の中を歩もう」
“Respect Y's Movement” 「ワイズ運動を尊重しよう」
「広げよう ワイズの仲間」
「継続は力なり・一歩でも前に・そしてあがこう」
「休まず たのしく 元気よく」

2017年11月号

NO 495

十字架の言葉は、減んでいく者にとっては愚かなものですが、わたしたち救われる者には神の力です。
コリントの信徒への手紙 1 1:18

ワイズ理解・ファミリーファスト 神谷 幸男

今月の強調月間のテーマはワイズ理解とファミリーファストです。これにちなんでの短文です。ファミリーファストは言うまでもなく TOF の家庭版であり、TOF の一形態です。TOF で国際本部に集められた献金は具体的にはその都度検討されてしかるべき事業に配分されています。要は世界の弱くされた人々への支援ばかりでなく、再起のための支援のために使われます。

この活動はまさに「イエス・キリストの教え（隣人愛、例えば世の中から小さく弱くされた人々に寄り添う）、に基づき…「あらゆる人々と共に働く」ことを掲げているワイズメンズクラブの働きでありましょう。我々はファミリーファスト活動、TOF 活動の意義を学んでワイズを理解したいものです。

ユニセフ（UNICEF：国連

児童基金）、UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）等、国際レベルで様々な理由で貧困に追い込まれている人々（特に子ども）を支援する団体が活動しています。その活動は、スタッフが現地へ赴き医療活動、給食活動、簡易宿泊支援等、人道的支援です。

なぜこのように人の支援を受けなければ生命を維持できない人がいるのか、文化的生活の営みに必要な住宅を持つことができない人々がいるのか、これらの大きな課題は世界レベルで抜本的に対応しなければならぬ問題ですが、これらの人々（隣人）が現実にいることを認識することも肝要でありましょう。そしてこの認識の上にたって隣人に手を差し伸べる気持ちの上での余裕を持ちたいと思います。

今月の強調テーマに関連して考えさせられました。

秋色に彩られた八王子城址 WHOウォーキングのご案内

久保田貞視さん（東京八王子）とボランティアガイドの案内で、戦国時代の山城のロマンに触れましょう。

期 日：11月25日（第4土曜日）

コース：JR 中央線・京王線・高尾駅ー＜バス＞ガイドン施設ー本丸・八王子神社登り口ー大手門跡ー曳橋ー御主殿跡ー御主殿の滝ー管理棟ー宗関寺ー北条氏照と家臣の墓ー八王子霊園南口バス停ー＜バス＞ー高尾駅

集 合：JR 中央線・高尾駅北口 改札前 9：45

解 散：高尾駅北口 14：30

携行品：弁当・飲料（かならず）、敷物、雨具、名札

参加費：300円（施設入場料、交通費は個人負担）初参加の方は別に名札代として200円。

クラブ役員

会 長 本川 悦子
副 会 長 石井 元子
書 記 篠原 文恵
会 計 村野 絢子
担当主事 宮崎 純

10月の記録			ニコニコ	8,458円
在籍者数	16人	メネット	1人	クラブファンド 14,345円
(内功労会員)	1人	コメント	0人	ファンド残高 191,991円
出席者数	13人	ビジター	3人	ホテ校ファンド 13,000円
メーキャップ	0人	ゲスト	4人	ホテ校残高 42,282円
出席率	87%	出席者合計	21人	WHO参加者 14人
前月修正	-			

11月例会のご案内

今月の強調テーマ：

ワイズ理解・ファミリーファスト

秋冷の秋を飛び越して一気に冬の到来を思わせる昨今です。部会のホスト役なる大役からも解放されました。

今月は甲府 21 クラブ・功刀弘さんを招き、私たちの大敵ストレスの解消法についてお話を伺います。悩んでおられる方は知人・友人をお誘いの上ご参集ください。

日時：11月16日(木) 18:45~21:00

会場：「あんさんぶる荻窪」5F 第2会議室

(杉並区荻窪 5-15-13 TEL/03-3398-3191)

会費：1,500円 (ゲスト・ビジター・メネット)

担当：B班 (神谷、石井、河原崎、宮崎)

HAPPY BIRTHDAY

該当者なし

開会点鐘

ワイズソング

聖書朗読・感謝

挨拶・ゲスト&ビジター紹介

会食

卓話 「私のストレス解消法」

精神科医 医学博士

甲府21クラブ 功刀 弘さん

ハッピーバースデー

諸報告

YMCA 報告

ワイズ報告 (地域奉仕、会員増強、国際・交流、ユース) 会長他

ニコニコ献金

閉会点鐘

受付 河原崎和美

司会 神谷 幸男

会長 本川 悦子

一 同

神谷 幸男

会 長

会 長

会 長

会 長

会 長

会 長

会 長

会 長

会 長

会 長

会 長

会 長

会 長

-10月第2例会(事務会)-

日時：10月26日(木)

18:15~ 部会準備委員会

19:00~21:00 第2例会

場所：あんさんぶる荻窪 4F

出席者：石井、大野、神谷、篠原、高嶋、村野、吉田

①10月のデータを確認した。

②10月次会計報告を承認した。

<協議事項>

▲11月第2例会

日時：11月23日(木・祝)

19:00~21:00

場所：あんさんぶる荻窪 1F

▲12月クリスマス例会

日時：12月21日(木)

18:45~21:00

場所：クレヌ・ド・リュヌ

▲12月第2例会

日時：12月26日(火)

19:00~21:00

場所：あんさんぶる荻窪 1F

①あずさ部会の結果報告が神谷実行委員長からなされた。

81人の出席をいただき、ほぼ計画通りの催しとなり、生じた会計の不足分はクラブファンドから支出することを決めた。最終会計報告は11月第2例会

で出される。

②2018年1月27日開催予定の「東京YMCA第12回子育て講演会」への協賛金依頼を受けたので、当クラブからも協力する。

③11月13日(月)に、IBC・台北セントラルクラブのオースチン・リンさんの来日に合わせ、当クラブとの交流会を予定。参加予定者は、大野、神谷、高嶋、吉田の各氏。(書記・篠原文恵)

石巻市荻浜地区

津波の教え石・石碑除幕式

2011年3月11日に起きた東日本大震災から6年7ヶ月を経過したが被災された方々の傷は未だ消えていない。

津波被害者の追悼と被害者を出すまいとの悲願を込めて、「津波の教え石」なる記念石碑を、昨年2月には仙台3ワイズメンズクラブと仙台YMCAが支援して同市名振地区に建立し、ペンタゴンDBCも協力した。今般10月28日には同市荻浜地区に「津波の教え石」石碑が建立され、関係者約80人が集まって除幕式が行われ

卓話者紹介

功刀 弘 (くぬぎ・ひろし) さん

1937年7月26日生 80歳。

1962年3月慶應義塾大学医学部卒業。精神医学界の要職を務め、現在、くぬぎクリニック名誉院長、山梨いのちの電話理事長。

た。今回、ペンタゴンDBCは特に金品支援はしなかったが追悼の思いを込めて石碑除幕式に参加した。同DBC代表の森田恵三さんは思わぬ飛行機の欠航で残念ながら参加ができなかったが、高嶋美知子さんと神谷が参加した。建立祝い金としてDBC会計より3万円を贈呈した。

今回の石碑の製作に当たっては地元の荻浜中学校のOBを含む全校生徒さん17人が石碑のデザイン、外構、碑文の文言を考案するなど、また刻字にも挑戦したとか、主体的に関わったとのことであった。



彫刻を語る津田裕子さん

—10月例会報告—

10月19日(木)、例会の卓話は女子美術大学・立体アート科名誉教授の津田裕子先生。「彫刻の見方」というテーマでお話いただきました。先生は、彫刻家でその作品は二科展でローマ賞や文部大臣賞等、多くの賞を受賞されています。

卓話では、スライドで、有名な彫刻家の作品とその解説、彫刻のできるまでの説明、ご自身の作品等、限られた時間が恨めしくなるほど、興味深いお話が続きました。最初はミケランジェロのダビデ像。スライドで、像の正面、右左、後ろを見、その解説を伺いながら、最初からショックを受けました。台座の上に大理石の4mもある像のバランスをとって、立像を作るという事の工夫、筋肉や血管には気がついて、身体のひねりや右足の後ろにつけられている支えの意味など考えたこともありませんでした。

ロダン、礫山、マンズ等の作品、彫刻の沢山の工程、大理石や青銅、石灰、木、そしてプラスチック等様々な材質、大変な作業です。

そしてご本人の作品、ノーベル賞受賞者「大村智博士像」、「風の時」を拝見し、最後に、「運慶展」の素晴らしさを語られ「感じる心があるから作りたい」と今後の決意を伺ったように思いました。女性の彫刻家、作品、思い、感動しました。「これから彫刻の

見方が変わってくると思います」とは多くの参加者の感想です。

(鳥越成代)

出席者：<メンバー>石井・大野・神谷・河原崎・神崎・篠原・高嶋・竹内・鳥越・村野・本川・吉田・宮崎、<メネット>神谷、<ビジター>久保田貞視・小口多津子・長谷川あや子さん(東京八王子)、<ゲスト>青柳千賀子さん・佐藤幸楽さん・藤井貴美子さん。

大野あずさ部長クラブ訪問

東京八王子クラブ



公式訪問のあいさつをする大野あずさ部長と渡辺敦さんと牧野充幸さん

2017年10月14日大野あずさ部部長の東京八王子クラブ公式訪問に同行した。当日は「中大ナイト」と銘打って例会を中央大学Yひつじぐもの学生7人の出席を得て運営した。

司会は2年生の坂本菜美さんが担当された。当日は通常のプログラムに加えてあずさ部部長大野あずささんの部長挨拶と東日本区ユース事業主任長津徹さんのあいさつがなされた。聖書朗読と食前感謝は1年生の原部佑基さんが担当された。

卓話は「AYCに参加して」と題して3年生の渡辺敦さん、「夏季ゼミに参加して」と題して2年生の牧野充幸さんが行った。両君ともAYCあるいは夏季ゼミの核心を明確にとらえて語り、まことにすがすがしい思いで拝聴することができた。またスマイル(ニコニコ)では「ひつじぐもから九州北部豪雨支援金に」と4年生の

牧野充幸さんが献金した。また、3年生の須郷利貴さんが来年4月からSTEP派遣を希望し、台湾高雄市で短期交流生活を送るとの報告があった。

東京八王子クラブは中大Yと見事な交流・連携がなされていることを目の当たりにして、陰ながら東京八王子クラブに賞賛の意を捧げたい。

なお、東京西クラブから篠原さん、鳥越さん、本川さん、神谷M、神谷が参加した。(神谷幸男)

—10月WHO報告—

10月のWHOは28日。久しぶりに都会を離れ、多摩丘陵の美しく豊かな自然を活用した東高根森林公園と長尾の里の古寺巡りで、秋を堪能するWHO推薦のコース。天気ばかりは如何ともしがたく、当日は台風22号の接近で日本列島全体が、曇のち雨の天気予報。小田急線登戸駅には、雨にも負けずと身支度万全の14人のつわものが勢揃い。何年ぶりかの小グループで9時50分、はりきって出発。

南武線で2つ目の久地駅で下車、川崎市宮緑ヶ丘霊園に向かう。広大な敷地に墓石が整然と並び、中央を見事な桜並木が続く。この頃より雨がポツリポツリ、傘なしでも歩ける程度。花見時の賑わいを想像しながら森閑とした霊園を行進。

東高根森林公園北口より入園。有難いことに雨足は強まらずポツリポツリ。午前10時半頃の園内は、雨模様のお陰でまさに無人。広大な公園は14人の貸切となる。無音、無風、湿気を帯びた森林の空気がおいしい。

古代植物園には、縄文から平安時代にかけて、日本人の生活にかかわりのあった植物が繁茂。立札に万葉集の歌が書かれ、その中に万葉名の植物が歌われている。10首近い歌が書かれていたが、悲し

(P6に続く)



第21回あずさ部会集合写真

第21回あずさ部会開催

10月21日(土)11:30~15:30、台風21号の来襲が危ぶまれましたが来襲の前に開催することができてホッとしました。会場は神楽坂(住所は新宿区袋町)にある日本出版クラブ会館。来賓を含めて81人の参加者を得て盛大に行われました。

第1部はワイズセレモニーに続いて4主査による第1四半期の活動報告や今後の予定と要望等が行われ、次にメインイベント、竹内隆さんによる「誰でもなれる百歳長寿を目指すー平成の養生訓ー」と題する約40分のスピーチ。91歳の竹内さんは立ったままのスピーチで、91才はまだまだ元気で活躍できることを実証しました。また、東京西クラブのブリテン2016年7月号~2017年3月号に連載された同名のエッセイを1冊に纏めた小冊子を参加者全員に配り喜ばれました。



スピーチする竹内 隆さん

参加者全員の記念撮影の後、会場を「鳳凰」に移して懇親会。河原崎さんの司会で和やかにかつ楽し気にすすめられました。buffetスタイルの食事も終わったところにメインイベントの2つ

目、宮城洋子琉球舞踊研究所の3人の出演で伝統的琉球舞踊3曲を鑑賞しました。ステージが狭くて出演者にはお気の毒でしたが、素晴らしい衣装と相まって格式の高い舞踊を鑑賞することができました。大変素晴らしかったです。その後ほんの数分でしたがエイサーを参加者有志が踊り琉球を味わいました。



琉球舞踊「かぎやご風」を踊る富村博子さんと宮本美保子さん

その後、出席クラブの紹介。DBC 熊本にしクラブの亀井純子会長と佐藤通彦さんにはごあいさつをいただきましたが、その他のクラブのメンバーはいつものようにクラブのメンバーの挙手によって紹介されました。

アピールタイムに移り、東日本区大会、クラブの周年特別例会、DBC 締結式予告、CS活動イベントの紹介等々が演出よろしくアピールされました。

最後に、今後あずさ部の会合において高らかに歌おうではないかと作られた「あずさの道」を作詞・作曲者の浅羽俊一郎さん(東京世田谷)のリードで、1回練習の後、まだ声高らかにとは言い難

かったかもしれないが全員で歌い、続けて「YMCAの歌」を元気に歌い、大野部長の閉会点鐘をもって第21回あずさ部会は無事終了しました。

東京西クラブからは11人が参加しました。また大野部長が提案した「九州北部豪雨被害支援募金」には54,529円が集まり東日本区に贈呈されました。

(神谷幸男)

YMCA Today

◇9月の例会で東京YMCA副総主事星野氏の卓話で伺いましたが、日本全国のYMCAは10月1日に新しいロゴとスローガンを発表しました。新ロゴマークの愛称は「ポジティブY」。今後、日本のYMCAはこれをシンボルにして次代を開拓していきます。すでにホームページやフェイスブックでお知らせしたところ、「優しいイメージ」「使いやすそう」「赤三角がなくなるのは寂しい」などの声が寄せられています。皆様はいかがでしょう？

◇東陽町ウェルネスセンターは、1988年の開設以来、多くの皆様に支えられて運営してまいりましたが、2017年12月29日をもって、東京YMCAによる運営を終了いたします。2018年4月(予定)よりフィットネスクラブ「ゴールドジム」が運営いたします。子どものスイミングクラスとテニスクラスは、ゴールドジムより委託を受け、引続き東京YMCAが運営いたします。なお、インターナショナルスクール、東陽町語学教育センター、東陽町コミュニティセンター、および社会体育・保育専門学校、にほんご学院の教室、実習施設は引き続き東陽町センターで運営を行います。本部は西早稲田の日本キリスト教会館6階に移転いたします。よろしく願いいたします。

(担当主事 宮崎 純)

☆☆ インタビュー ☆☆ 布上征一郎さんに聴く

* * *

布上征一郎さん（東京グリーン）は、入会 15 年、まさに官房長官の働きをされています。



—布上さんと初めて会ったのは、神田・小川町のバーでした。

「そうでしたね。クラブ例会の後、皆で軽く二次会として立ち寄るカウンターバーでした」

—新メンバーだと紹介された時、ちょっと怖い感じがしましたよ。

「初対面ではそんな感じかもです。家内によく言われます…」

—神田は地元だったのですか。

「当時あった東京 YMCA 神田会館のウラで生まれて 65 歳までいました。生粋の江戸っ子、四代目です。親父は印刷関連の経営者、43 歳で亡くなり、私が中学 3 年で事業は継げませんでした」
—子どもの頃は、何になりたかったですか。

「小学校時代は、なんとなくアナウンサーに憧れていたらしいです。放送部にいました。その後、中一では水泳部、中二では軟式野球部、そして中三でサッカー部に入りました。結局、サッカーは大学卒業まで続けました」
—それでサラリーマンに。

「ええ、印刷関連会社に就職し、定年まで勤めました」

—YMCA やワイズとの縁は。

「小学生時代から YMCA プールで泳いでいました。私の遊び場でした。ワイズへは、高校時代の同級生、藤井寛敏君（東京江東）に誘われました。定年後、特に何

をするとも決めていなかったの
で…。入会してしばらくして、藤井君と相談しながら高校の同級生を勧誘しました。柿沼敬喜（東京グリーン）・中村孝誠（東京山手）・長澤弘（東京）・春日井明（東京）・神山巍（東京・故人）・小島康良（東京）という方々です」
—皆さんがクラブにとってかけがえのない方々ですね。

「グリーンに入会した柿沼君は、一級建築士で神田川船の会の〈橋巡り〉に興味があったので話に乗ってくれた。中村君はお嬢さんが山手 Y で世話になっていたのだから手説得。あと、長澤、春日井、神山、小島君は東京クラブの雰囲気が合いそうなので、定年後に『人の為になることをしようじゃないか』と」
—布上さん自身、ワイズ入会の決め手になったのは。

「“人のために力を尽くす”という、ワイズ運動と奉仕の精神に納得したのです」

—すぐなじめましたか。

「藤井君が私を東京グリーンに紹介した時、『遊び万能のクラブにぴったりの男がいる…』と言ったそうです。まあ、別に悪い気持ちはしませんでした。今では藤井君に感謝しています」
—メネット信子さんとワイズを本当に楽しんでいるように見えますよ。

「メネットは私が入会后 1~2 年くらいは全然ワイズに興味がなかったみたいです。例会やワイズの行事に出始めて、お友達が出来て…今に至ります」

—2005-2006 年、浅見隆夫理事の時に理事事務局長をやられ、クラブでも書記やブリテンエディターをやられていますね。

「書記やブリテン作成はクラブの土台であると自負しています」
—同感です。書記は記録係ではありませんね。クラブに“流れ”をつくるのが役割ですよ。

「クラブ外には会長と一緒に

掛けることも多いです。いずれにしても、PC 操作、IT 関連が好きなことで、皆さんから安心して仕事を任せていただいているのでしょね」

—パソコンは定年まぢかから。

「定年になる 4~5 年前の時期に、全社で事務処理を IT 化することになり、当時営業部で多少操作が出来た私もその担当の部署に配属され、PC での連絡網を確立するために北海道から関西まで各支店の指導に回りました。完全独学なので、未だに知らないことも多く、毎日が勉強です」
—貴クラブのブリテンを見ると、相当の読書家ですね。

「西澤紘一副会長から、少しブリテンを面白く、楽しくしたいね、という提案があって【ブリテン図書室】というコーナーを作ってメンバーに読後感を寄稿してもらいました。今では主に西澤さんの原稿が多岐にわたり、濃密な内容になっています。私はたいして読書家ではありませんよ。本当に」

—ワイズの例会などにあるキリスト教のセレモニーに抵抗がないと言い切られていますね。

「私は全く違和感・抵抗感はありません。クリスチャンでないので厳粛に聖句を聴いたり、祈ったり、歌ったりする機会は、例会やワイズの行事以外にありません。心が洗われます」

—ワイズメン、YMCA に期待することをお聞かせください。

「YMCA とワイズはいつも共にあり、車の両輪です。共通の重要目標・課題は「青少年の健全育成」です。特に近年の世界情勢をみると、大人自身が右往左往。政治的な立場はひとまず脇に置いて、青少年が「人として育つ」ように、ワイズ、YMCA 共に今回のブランディング運動を通じて一層連帯を深めたいものです」

—ありがとうございました。

（吉田明弘）

5) 高齢者の尿閉と前立腺疾患

男どもの集まる所、高齢になるほど頻尿の話題が多い。前立腺肥大症は意外に多くの方が薬を常用している。そこまでは良いが、これを飲み忘れてたり、旅行に出たり、酒席に出てハメを外すと思わぬ災難に会う。尿が出ない!

中学の同期会の席で、北海道から出席の O 君が、宿の私の部屋に苦しそうな顔でやって来た。実は前立腺の薬を飲み忘れ、早朝アタフタと出て来て尿がどうしても出ない。何とかならないかとのこと、導尿以外に手が無い。止む

なく救急病院のお世話になって愁眉を開いた。幸い浅草だったので事はうまく運んで、遠来の同期生に楽しい思い出をとの願いを叶える事が出来た。

一升瓶の水を急に逆さにしても水が出て来ないように、膀胱に溜めすぎると厄介な事になる。くれぐれも溜めすぎないように警告したい。

更に厄介な病気に前立腺がんがある。これは命取りである。多くの友人や患者さんを失って苦い経験を積んで来た。高齢者の場合、手術の適応があっても、余命

を考慮して内科的治療を勧める場合が多い。ホルモン療法として内服薬や1~3ヶ月毎の注射だけで10年以上も頻尿の軽い症状だけで老後を全うした例も多い。若い内から、腫瘍マーカーのPSA(前立腺特異抗原)を年に1~2回程度チェックして早めに対策を講じたい。PSAは70歳以上で4ng/ml以下が正常値だが、前立腺肥大症、前立腺炎でも上昇する。高齢で手術を勧められなくとも、どちらを選んでも余命はほぼ同様である事実を認識して気楽に過されることをお勧めしたい。

シゲとあーやの子育て④
村野絢子

長男 Y は小さいころ近所の友達と遊んでいたが泣いて戻ってきた。「外の喧嘩は家に入れないで」と言い玄関を閉めた。

小学生の時、教会の友達3人とボーイスカウトに入った。団の野球大会の後、父親達が豚汁を作り、ご馳走になった。「僕も作りたい」と言うので、「いいわよ」と云うと他の姉妹が「ずるい」と

いう。「作りたいなら自分でそう言いなさい、作らせてあげるけれど、いやになったらそこで終わり、全部お母さんが作るから」そこで2人組になっての毎日の夕食作りが始まった。子ども5人分で(大人は別メニュー)当番の子と買い物に行った。

チャーハン・カレー・餃子・肉野菜炒め・豚汁程度だった。小学生の間続いた。

奈良の十津川では吊り橋をびびっている友人たちを置いて、猿

のように走って渡った。

長男は真冬でも普段はランニングと短パンで過ごしていたので、ある朝、朝礼台に上げられて、校長先生から「この子のように強くなりなさい。」と紹介されたが、母親達から「見てのだけで寒くなるから止めて」と言われ続けた。彼なりの自己主張だった。中学生になると普通に制服を着ていた。

東京で育った野生児は今、葉山に住んでいる。



東高根森林公園の湿性植物園

(P3から続く)

いことに1首も思い出せない。古代芝生広場の地下深く、縄文、古墳時代の東高根遺跡が埋蔵されている。片隅に「マユミ」という聞きなれない大木から薄赤いつぼみの房が、かんざしのように揺

れている。その美しさに感嘆。湿性植物園には、木道が作られ周りの池には小魚が泳ぐ。歩きやすい木道を楽しむ。12時前の昼食は運よく雨も上がり、パークセンターの建物前のベンチで14人揃って、おにぎりを頬張る。

昼食後は長尾の里へ。

新しい近代的な家屋が立ち並び、曇り空のかなたに新宿西口の高層ビルが霞む。高い石段を登り長尾神社に参拝、隣の妙楽寺はあじさい寺として有名。広い境内を歩き、2時過ぎ解散。

今回のWHOは大成功! 雨足

はポツリポツリで風もなく寒くもなく、そして広大な森林公園の貸切! 家族的な小グループで全員顔が見えました。

ワイズ関係の参加者は、石井・吉田(東京西)、中澤・藤江(東京たんぼぼ)でした。(石井元子)

編集後記

ブリテン編集を苦手とする今月の編集担当者は、今月に限って(次回もこうありたいと願ってはいるが)原稿依頼を始めとする編集作業を9月末からスタートさせたので、念願の早期発行が実現できた。原稿を寄せていただいた方々に感謝します。(SK)